

変革の年にしよう

令和7年度の初めにあたり、ご挨拶を申し上げます。桜も花開いて、いよいよ春本番の到来です。

皆さん、昨年は大きな課題に取り組み、今後への道筋を開いて頂き有り難うございました。センター・三公社一体化計画の進展、道路の料金所再編成やETC導入の準備、県営住宅入居基準の変更と実行、ICT活用による働き方改革、市町への精力的な営業活動等です。

今年は「変革の年にしたい」と、私は心に定めています。今年は巳年ですが、蛇が脱皮して生まれ変わるように、組織全体が生き生きと、本来の面目を発揮できるような年にしたいと思います。年内には仮事務所への移転が決まっていますが、これはセンター・三公社にとっては、かつてない大きな変化です。これを好機と捉え、古い殻から脱皮して新生のセンター・三公社にしようではありませんか。一人ひとりの知恵を出し合って、変革のために邁進しましょう。ラグビーの有名な言葉、“One for All, All for One”を実行しましょう。私も先頭に立って、皆さんと共に歩む決心です。

さて、4月1日付で人事異動がありました。皆さん、新体制のもと、心をつにして、目標に向かって参りましょう。

経営の基本については、これまで繰り返し述べてきましたが、新しい方も居られるので、改めて確認します。次の三つです。

- 1, 「お客様と共に歩む」経営理念の徹底。
- 2, 健全経営の実現。
- 3, 現場主義の徹底。

『経営理念』は、センターと三公社の共通目標、そして組織の存在価値そのものを示します。お客様とは私たちを支えてくれる全てのステークホルダー（利害関係者）を指し、良いサービスを続けてお客様に喜んで頂くこと、これ以外に組織発展の道はありません。

『健全経営』は、三つの要素からなります。損益の健全性、資産の健全性、それに社会的信用の健全性の三つです。前の二つは財務諸表で、PL（損益計算書）とBS（貸借対照表）です。赤字続きでは組織は解散するしかないし、不良資産を抱えていては利益も見せかけに過ぎません。三つの中で一番大事なのが、信用の健全性です。信用があれば、組織は永らえます。最近流行のSDGsの「持続可能性」ですが、易しい日本語で言えば「長寿化」です。ちなみに、日本の創業200年を超える長寿企業の数、世界の65%を占めています。その秘訣は、社会的信用を重んずる経営理念の存在にありました。近江商人の「三方よし」（売り手よし、買い手よし、世間よし）は、その良い例です。目先の損得に目が奪われて大事な信用を失ってしまっただけでは、日本企業の長寿化も先々が心配です。信用は、人が創るものです。一人ひとりがお客様の身になって、親身のサービスを続けることによって、信用は高まっていくのです。また、コンプライアンス（法令遵守）の重要性は言うまでもありませんが、それは法治国家で国や人が守るべき最低基準であり、改めて皆さんにお願いしたいのは、それを超えた倫理観を以て仕事をして頂きたいことです。

『現場主義』は、「現場に立って考え行動すること」です。問題がある時はもちろん、将来計画を考える時にも、足しげく現場に出かけましょう。そこに必ず解決のヒントがあります。机上の空論ではダメです。変事が起きた時には直ぐにピンときて、現場に急行するようであればいけません。まして、そのセンスのない幹部には、管理監督者の資格はありません。現場主義を徹底すれば、現場で問題を解決する能力、すなわち「現場力」が高まります。何かが起こる前兆さえ掴めるようになります。それが組織の真の実力なのです。毎年の業務表彰

審査会では、多くの改善提案が出てきます。これは、センター・公社の現場主義・現場力を示すものとして、私は高く評価しています。

今年の重点課題としては、次の三点に注力したいと思います。

- 1, センター・三公社の一体化促進。
- 2, 予算達成と中期計画推進。
- 3, 変革の推進。

『一体化』については、タスクフォースが動き出し、具体的なテーマが実行されるようになりました。縦割り組織に横ぐしを通すタスクフォースの役割はとても重要で、組織の垣根が段々と低くなっていることを実感できるのは、誠に心強いかぎりです。総花的に課題を網羅するのではなく、工程表を作り、優先順位をつけて実行して下さい。定期的な報告の場では、それを期待しています。

ところで、なぜ一体化を進めようとしているのでしょうか。全国的に公社が減少傾向にある中で、当センターと三公社を継続させるにはどうしたら良いか、それが発想の原点であり、その答えを一体化に見出そうとしています。高度成長時代にできた組織を、すっかり環境の変わった低成長時代にも機能するようにするにはどうしたら良いか、ということです。消極的には生き残り戦略であり、より積極的には維持発展戦略です。世の中に必要とされる機能や事業は、必ず存続発展します。世間は正直なのです。旧態依然たるやり方では、時代に対応する柔軟性を失い、組織は消えていく運命にあるのです。私たちは人や社会のために役立つ活動、を日々目指さなければなりません。

『予算と中期計画』は、最も重要な活動目標ですから、計画的に実行し、良い結果が残せるようご尽力下さい。市町への営業活動も強化しましょう。関係先とも連携し、全面展開しましょう。突発事態が起きた時には、信用第一に迅速で弾力的な対応をお願いします。その場合の予算や事業計画の変更は、経営の基本にそって判断して下さい。

『変革』は、センター・三公社の一体化促進と深く関係します。私は

まず、現在の「センター運営会議」を、7年度から『センター戦略会議』と改め、ここから『変革』をスタートしたいと考えています。現在の「センター運営会議」は、センターの発注者支援業務、地籍調査事業、高齢者・外国人の居場所づくり、という三つの事業の進捗状況の報告に止まっています。これを拡大し、戦略検討の場にするのです。「戦略会議」では、三部門からセンターと公社事業の重要事項や課題を提起して頂き、タスクフォースの進捗状況など共通課題と併せ、出席者が情報を共有し、必要な意見交換を行うのです。各部門の経営会議はそのまま残しますので、当初は議事内容が重複しても差し支えありません。タスクフォースのご努力により、研修会やプロジェクトごとに職員、部門間の相互協力は進んできましたが、「戦略会議」の場で経営管理の視点から管理者が相互理解を深め協力し合うことは、センター・三公社の発展にとって不可欠と私は考えております。

そして、今年度に予定している事務所移転は、またとない変革のチャンスです。DXやAIを活用した職場環境の整備や、お客様サービスの向上に向けて、戦略会議を中心に全職員が知恵を出し合い、センター・三公社の変革に向けて邁進しようではありませんか。

名実ともに「変革の年」とするよう、皆様のご協力をお願いします。

終わりに、ご家族ともども心身の健康に留意して下さい。そして来年の桜の時候には、お互いに「良くやったな！」と肩をたたき合えるような一年といたしましょう。

いつも同じことで恐縮ながら一

明るく、元気で、仲よく、厳しく！

以上